

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072600713
法人名	有限会社ラビット
事業所名	グループホームつるとかめ
所在地	福岡県
自己評価作成日	令和3年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和4年1月16日	評価結果確定日	令和4年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年はコロナ感染の為月1回の外出行事が出来なくなり、そこで四季折々の風景や行事を身体で感じる事が出来なかったのは残念なことです。誕生日会をしたり、クリスマス会・お正月会・節分・ひな祭り・端午の節句・夏祭り・敬老会等の行事を施設で行い皆さんの笑顔が見られたことで少しホッとしています。まだこの状況がいつまで続くかは分かりませんが、利用者様の喜ぶ顔が見れるように職員全員前向きに頑張っています。今はまずご利用者様、職員がコロナに感染しないように気を付けて行きたいと思っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近隣は、まばらに住宅が建っており、田んぼや畑がある静かな環境に「グループホーム つるとかめ」は立地している。近くには休日・夜間急患センターがあり、夜間帯に何かあった場合も対応がしやすい環境である。近隣には系列法人の住宅型有料老人ホームがあり、コロナ禍以前は行事等の際は合同で実施したり、火災や災害等があった際は駆けつける体制がある。事業所内は、行事の際や利用者が作成した作品がたくさん飾ってあり、賑やかな雰囲気である。職員が買い物をし、調理をした食事を3食提供しており、食事の配達業者等を利用せず、手作りの食事提供には力を入れている事業所である。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域でいきいきと暮らし自分のリズムに合わせたその人らしい普通の暮らし」の理念に基づき、地域とのつながりを大切にしている。	事業所の理念は事業所の中や入口に掲示をしており、職員がいつでも見る事が出来る様にしている。利用者には自宅に居るような感じで自由に過ごしてもらえようと、ミーティングでその都度意見を出し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の区長と交流があり、行事や活動の情報を得て文化祭などに参加している。	町内会に加入しており、会報誌が月2回届いている。コロナ禍以前は、運営推進会議への出席や三味線や笑いヨガ、合唱のボランティア等が月に1回来ていたが、現在はコロナ禍で実施出来ていない。市主催の文化祭に利用者作成の作品を出展したり等、地域との付き合いがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方の認知症の相談や介護保険制度の説明等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年会議は2ヶ月に1回開催し市役所・高齢者相談センター・ご家族に出席して頂き日々の活動報告や空き情報等の報告皆様からの御意見を聞き、サービス向上に努めてきたが今年は感染症の為開催できず書面で報告する。	コロナ禍以前は、地域包括支援センター、行橋市介護保険課担当者、町内会代表者、利用者、利用者家族が出席していたが、最近はコロナ禍で書面会議を実施している。書面会議の会議録は市介護保険課と区長には手渡ししている。	面会が自由に出来ない時期だからこそ、事業所の状況や取り組みが分かる様に、書面会議録を利用者家族にお渡ししたり、郵送してはどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方と情報交換しており、サービスの向上に活かしている。	コロナ禍以前は、運営推進会議に市介護保険課担当職員が出席していた。生活保護受給者が2名おり、ケースワーカーと医療券の相談をしたり、成年後見制度の件で連携を図っている。コロナウイルスの関係で、市に相談をしたりワクチンの相談をした事がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを確認し、各職員が理解し、拘束を行わない援助を実践している。	身体拘束を実施している方がいる。「身体拘束廃止虐待防止検討会議」を開催したり、身体拘束廃止に関する内部研修を実施している。内部研修に参加出来なかった職員は、伝達研修という形で研修を実施している。全職員が研修を受講している。	身体拘束廃止に関してのマニュアルの整備、身体拘束を実際に実施するにあたっては「一時性」「切迫性」「非代替性」を十分に検討し、身体拘束を実施した理由や時間帯等を明記した資料や記録を作成してはどうだろうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待や拘束について職員同士で話し合い、検討会を開き、各職員理解できている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	R3.8月に姪御さんから成年後見人制度を利用したいとの依頼があり、社協の方や弁護士の方との話し合いをご本人様交え行いR3.9.29に決定通知書を頂きました。職員も施設内研修を行い少し理解を深めました。	昨年、利用者の家族から成年後見制度についての相談があり、実際に地域包括支援センターと市の生活支援課と連携をして、成年後見制度の申し立ての支援をした事がある。月1回は成年後見人と電話で情報の共有をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談があった時点から、契約書・重要事項説明書細かく説明し、納得して契約、入居して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の設置や利用者様ご家族様の要望や意見を職員に直接言ってもらっている。内容は職員全員に伝え要望に対処しています。	目安箱を設置して、利用者家族が意見を申し出る機会がある。日頃は、何かあれば家族から直接、事業所に相談をして頂くようにしている。ケアプラン更新時や面会時に利用者家族の意見をお聞きしている。面会に関しては、少しでも会いたいとの意見が多いため、玄関で窓越し面会を実施している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が話しやすい人間関係を築いている。良い意見は積極的に取り入れている。	日頃の業務の中で、急な職員の欠員が出た時には、管理者と職員で話し合って、勤務を組み直したり、必要な物品の購入があった際は、管理者に相談をして管理者が社長に相談をして購入してもらう等している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員能力は把握している。勤務状況や勤務姿勢を考慮し賃金に反映している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	今年は施設外研修はほとんど参加できていません。年齢や性別を理由に採用対象から排除していない。	20歳代から70歳代の職員が勤務をしている。ピアノ演奏やハーモニカ演奏が得意な職員がいるため、利用者と一緒に音楽活動をしたり、料理が得意な職員がおり、利用者と一緒に盛り付けをしたりするなど、職員は特技を生かしながら仕事をしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に対するマニュアルを配布し理解するようにしている。また人権研修にも積極的に参加している。	コロナ禍以前は、市の主催で年に何回か人権学習の機会があったが、現在はコロナ禍で研修自体が開催されていない。例年の内部研修では人権研修に関する研修資料を職員に回覧して実施していたが、今年は実施出来ていない。	DVDを使用したり資料を使用したりして、内部での回覧研修等実施して、人権研修の機会を持つてはどうだろうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は施設外研修はほとんど参加できていません。参加できる研修に参加し参加後は職員全員に伝達できるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に参加して他事業所とも交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時家族様から生活歴を聞きとり、ご本人様が今の生活に馴染めるようにコミュニケーションをしっかりと、本人の状態やニーズを把握するように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかり話を聴き対応している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族からの相談、ご本人様の面談をしっかりと行い対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の状態をしっかり見極め本人が行える日常生活の作業など手伝って貰っている。役割を持って生活していると思っています。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの相談、意見や要望も取り入れて支援している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年は出来ていません。	コロナ禍以前は、家族や知人、友人等と面会を実施したり、家族と外出や外泊、外食等をしていたが、今年はコロナ禍でご遠慮して頂いている。散歩の時に、近隣の方とあいさつ程度声をかけたりする事がある。利用者の中には携帯電話を持っている方がいて、家族と電話でコミュニケーションを図っている方もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングで過ごしてもらい、交流が図れるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退所された家族からの相談にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に寄り添いその方に合った声掛けを行い、一人ひとりの意向に意向に沿えるように努力しています。職員が皆様の中に入り会話の橋渡しをしています。場を盛り立てて楽しく日々が過ごせるように支援しています。	利用者本人に何かしたい事がないかをお聴きしたり、利用者家族にお聴きしたりして、本人が少しでもしたい事を実施出来るように努めている。入居されて、在宅で過ごされていた時よりも、精神的に落ち着いて生活が出来ているとの意見を頂戴している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかり行い、今までの生活歴を把握できるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察、記録をしっかり行い、状態把握出来るように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時には、モニタリングにて現行プランの見直しを行いケアカンファレンスを開き職員の意見を聞いています。	計画作成担当者がケアプランを作成して、月に1回ユニット毎にミーティングを実施している。その際に、ケアプランの内容に追加等がないかの検討をして作成している。モニタリングについては、計画作成担当者が職員にヒアリングをしながら作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録表、申し送りで情報共有を図りながら日々のケアに役立てている。状態変化やニーズの変化があればその都度見なおしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様一人ひとりの能力やニーズに合った対応し支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化センターなどが企画する作品展等に出展し、交流を図り楽しく生活が送れるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が月2回の往診。入居前からのかかりつけ医を希望される方は定期的に受診介助し主治医に施設での状況バイタルなどを報告し治療に協力している。	嘱託医以外の主治医にかかっている利用者もいる。月1回の定期受診については、事業所職員が付き添って定期的に受診をしている。夜間の急変時は主任や管理者に相談をして対応している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員はいつでも看護師に相談や指示を仰げる体制をとっている。看護師も利用者様の状態を把握している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各医療機関の相談員やソーシャルワーカーさんとは友好的な関係を築けていると思っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針を御家族に説明して同意を頂いている。	看取り介護への対応は実施しておらず、継続的な医療が必要な場合や経管栄養の状態になった場合は、医療機関に入院を勧めている。「重度化した場合の対応に対する同意書」を入居契約時に確認して、署名、捺印をもらっている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを配布し、ミーティングを行い緊急時の対応は出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は定期的に行っている。他の災害については、行政や区長の支持を仰いでいる。	避難訓練は年2回実施している。水消火器や通報訓練、避難訓練等の総合訓練を実施している。実際の火災や災害時は事業所近隣にある系列法人の住宅型有料老人ホームの夜勤者1名が駆けつける体制になっている。また、近隣に住んでいる職員2名も駆けつける体制となっている。	夜間想定訓練を実施してはどうだろうか。消防署の立ち会いの訓練も実施しているので、消防署からのアドバイスをもらって、実際の避難訓練に活かしてはどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入るとかは必ずノックをしています。トイレ誘導時にも配慮行い利用者様の状態を考えて対応しています。	利用者が失禁等して臭いがした際は、職員同士でも大声で知らせずに、他の利用者に聞こえないように、分からないように対応をしている。排泄介助時や入浴介助時に同性介助を希望された際は、極力対応をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とコミュニケーションを図り、自己決定捨て頂いています。表情や行動などでも利用者様の意思を読み取るように心がけています		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のリズムに合わせた生活が送れるように支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿うように支援しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の能力に合わせ手伝ってもらっている。下膳のできる方は無理のないように行ってもらっている。ご利用者様が重度化されてきており、出来る方が限られてきている。	コロナ禍以前は、職員が買い物に行ったり、利用者と一緒に買い物に行くこともあったが、現在はコロナ禍で利用者と一緒に買い物には行っていない。食事提供は買い出しから調理、盛り付けまで3食、職員が手作りで提供している。食事形態は常食、粗刻み、刻み、極刻み、ミキサー食の提供が可能である。盛り付けや茶碗洗い等、利用者の方が手伝ってくれている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は記録に残し、不足にならないように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員行っている。必要な方はマウスウォッシュを使用し、口腔ケアに努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け、排泄状況を把握し定期的にトイレ誘導行っている。日中帯はほぼ全員トイレでの排泄を試みている。	排泄チェック表を記載して、排便コントロールを実施出来たり、おむつに失禁する回数が減ったりして排泄チェック表を生かした排泄介助を実施している。布パンツを使用している利用者もあり、少しでも自立して排泄が出来る様に支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を付け、排便状況を把握している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の状態を把握して入浴して頂く。入浴の時間、曜日は決まっているも利用者様の状況や希望により変更は可能です。	週3回入浴支援をしている。本人の好みのリンスインシャンプーやボディソープを使用している利用者もいる。利用者家族が柚子を持って来て下さり、柚子湯の機会を持っている。入浴を嫌がられた時は、入浴日を変更する等柔軟に対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室対応なのでご自分のペースで生活されている。休みたいときは休んで頂き日中皆さんと一緒に過ごされたい方はリビングのソファで自由に過ごされている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能書きはいつでも確認できる場所にあり、全職員が理解できている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様やご家族様お話を聞いたことを参考に喜んだ頂けるように掃除や洗濯干し・たたみ・食事づくりの手伝い等日々を通して支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は中庭に出たり、近隣を散歩している(外出行事は今年は出来ていません)	コロナ禍以前は、初詣、梅、桜、菖蒲、コスモス等の花を見に行ったり、外食を実施したりしていたが、現在はコロナ禍で実施出来ていない。近隣の散歩をしたり、キュウリ、ナス等の野菜を育てたり、草取りをしたり等、可能な限り外に出る機会を設けている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族や後見人さんに任せている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が電話をかけ変えることはある。家族からかかってきた電話の取次ぎを行っています。毎月の請求書と一緒に利用者様や職員の書いた手紙や写真を送っています		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外部からの騒音はほとんどない。温度はエアコンで光はブラインドで調整し快適に過ごせるようにしている。	共有空間にはテーブル、椅子、ソファ、畳の部屋があり、横になって寛ぐ利用者もいる。トイレ4か所、浴室、脱衣所は各ユニット1か所設置している。廊下や事業所の入口には、利用者が作成した書初めや、絵や貼り絵、カレンダーや室内での行事の写真を多く貼って、賑やかな雰囲気である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの家具などを持ってきてもらい使っている。	居室内は介護用ベッド、大きな収納、洗面台、電灯、ブラインドが設置してある。本人持ちで筆筒やテレビを持ち込んでいる利用者もいる。家族写真や利用者が作成した作品を居室内に飾っている利用者もいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室はわかりやすく表示しています。利用者様の状態に合わせて支援している。		